

# 看中国

北京っ子が見た祖国

VOL.10 2013.3.12

今月のトピックス：

## 中国の住宅事情



moririy です

### その2 ～ 庶民の楽園 ‘平房’ ～

前回、中国の住宅事情・その1「簡易楼」についてご紹介しました。いかがでしたか？簡易楼の記事を通じて、経済発展する前の中国の人々は設備が整っていない住宅に住んでいても満足し平凡な生活を送っていたことをご理解いただけましたでしょうか？

1990年代後半の都市大改造計画によって簡易楼のような古い建物がどんどん取り壊され、大都市は高層ビルの立ち並ぶ近代都市に生まれ変わりました。今後、懐かしい時代を感じる素朴な「簡易楼」が見られなくなると思うと、私はとても淋しく思います。

さて、「簡易楼」に引き続き、今回は最も中国の庶民的な住宅を代表する「平房（ピンフォン）」をご紹介します。

#### ‘平房’って、何？

「平房」、直訳すると平屋になりますが、決して日本人がイメージする立派な一戸建てではありません。一部の高官と富豪が住む豪華なものを除いて、古いレンガ造り、或いは木造で瓦屋根の建物です。部屋の中には電気以外の設備をほとんど備えていないため、水道やガス、またトイレなどは表に行かなければ使えないというとても不便な雑居住宅をいいます。



中国各地の「平房」のイメージ写真

## ‘平房’は昔からの庶民の住宅

中国文化に興味のある方、または中国を訪れたことのある方なら、前ページの写真を見ればすぐ分かると思います。写真のような平房は今でも中国各地にあって、最も庶民的な住宅となっています。特に経済発展が遅れている地域は、100年も200年以上も前に建てられた古い平房がまだ住宅の主流となっています。また、地域や民族を問わず、大家族が狭い一つの屋根の下で一緒に暮らすことも昔から引き継いだ習慣でもあり、今でも決して珍しいことではありません。

代表的な平房は世界文化遺産にも登録された「麗江古城」と「平遥古城」にある他に、北京の後海という地域にあるのが最も知られています。



麗江古城の「平房」



平遥古城の「平房」



北京後海の「平房」

## ‘平房’の特徴

広い国土と多くの民族を持つ中国では、生活風習と地域によってさまざまな平房が存在します。一軒一軒が壁一枚で仕切られた長屋タイプ、「四合院」という、一つの庭を複数の家で囲むタイプ、または南方地方や山岳地帯には扇形のタイプなどさまざまな平房があります。

どの平房も中は簡易なりビングのようなスペースだけで、そこに寝床や椅子、テーブルを置いて生活します。水道などの設備はなく、表の共同井戸を使い、トイレは表の公衆トイレを使います。台所も勝手に増築するか、部屋の外の一角を適当に利用するくらいしか方法はありません。また、電気が普及するまでは多くの人は日暮れになると寝てしまうか、行燈を灯していました。北方地方と西北地方では部屋の一角にレンガでベッドスペースを設け、冬になると、外から火を焚いてベッドの下を暖めます。これがあれば、厳しい冬でもベッドの周囲はオンドルのようになり、とても暖かいです。一方、夏の暑さをしのぐには特に良い方法はなく、部屋のドアを開けっ放しにして、扇子とうちわで耐えるしかありません。



このような平房は昔から生活レベルのやや低い人々の住居としてよく知られています。建国後の住宅難の時代に都市計画に従わず、設備を整えないまま違法に建築や増築されたものが多かったため、各地に品質の低い平房が氾濫し、とても安い金額で借りられるようになりました。

### ‘平房’は庶民の楽園

平房には生活に必要な設備がほとんど備えられておらず、防音構造にもなっていないため、隣人同士の生活パターンや家庭の事情などをお互いに知っています。そのため、お互い困ったときは助け合い、ときには激しい口論もあります。自分の部屋の近くに隣人が勝手に増築してトラブルになることも絶えませんが、日が経てばいつの間にか仲直りし、いつもの暮らしに戻っていました。このような下町人情が今でも中国の平房エリアで感じることができます。

平房に住むなら、近隣とのコミュニケーションを図りやすいだけではなく、今でもこのエリアでよく見かける行商人とのやり取りも下町風景の一つとして魅力を感じることができます。

平房で生まれ育った人、特に年寄りの方は高層マンションに移り住んでも、平房を懐かしく思い、自分たちの楽園だと思っていた人は少なくないでしょう。

平房に住むことには、のんびり暮らすイメージがあります。お天気の時に外に坐って、日の光を浴びながらお茶を飲んだり将棋を指したりして、くつろいだ時間を過ごすことは最高ののです。





## ‘平房’の現在と未来

都市計画により、古くなった平房は次々と取り壊されていますが、繁華街に面した平房の持ち主は、小さな朝食屋や小売店など生活に密着した人気店にリフォームしました。いつかきっと取り壊されることを覚悟して、今のうちにささやかな収入を得るために平房を賃貸するか、自分で経営しながら生活をしています。



一方、平房は、既に中国文化を代表する景観テーマとして知られています。前述しました世界文化遺産に登録されている箇所に加え、国家級の文化財産として「〇〇文物保护单位」の看板が掛けられて保護されている平房もあります。また、これらの場所にはさまざまな観光ツアーなども盛んです。中でも最も有名なエリアの一つが北京にあります。北京の東城区全域に広がっていて、人力車に乗って町をめぐれば、庶民の生活を目のあたりにすることができます。さらに、平房式のホテルも各観光地に建てられ、生活体験もできます。



以上の観光内容はシーズンを問わず、世界各国からの観光客を魅了しています。皆さんも機会があれば、ぜひ平房が残存しているうちに一度中国を訪れてみてください。

次回は最終回の「房奴」についてご紹介したいと思います。請う、ご期待。